

# ダルニー通信

076  
2015  
SUMMER

02-04

特集

## ラオスとカンボジアの 教育の歴史

05

私の教育基金

06-07

ラオス・カンボジアの奨学金

8-9

エッセイコンテスト作品

10

豊中十四中で講演

11

カンボジアで寮建設

12

MS & ADコンサート

13

ニコンがラオス支援

14

タイ料理

15

民際の現状Q & A

16-17

理事会

18

研修旅行

20

少数民族プロジェクト

## メコン五ヶ国の教育の歴史（後）

2010年のユネスコの統計によれば、世界で読み書きができない人は約7億人6,000万人。弊センターが支援している国の非識字率はラオス31.3%、カンボジア23.7%と高く、タイ、ミャンマー、ベトナムは10%以下です（ウィキペディアより）。特にベトナム、カンボジア、ラオスの3カ国は19世紀にフランスの植民地になって以降、第2次世界大戦でフランスが一時撤退→戦後、戻ってきて独立戦争→フランスが撤退するとアメリカと戦争→1975年にアメリカが撤退→社会主義国路線の国づくり→ベルリンの壁崩壊後、開放路線、と3カ国とも似通った歴史をたどってきました。にもかかわらず、識字率に差があるのはなぜでしょうか？

1つの理由は、ラオスもカンボジアも15～19世紀までの間、当時強大だった隣国タイやベトナムとの戦争で負け続けたことでしょう。

カンボジアの首都プノンペンにある博物館に行くと、かつてインドシナ全域にまたがったアンコール王朝の領土を表した地図があります。カンボジア人に案内されると、その地図の前で、かつてのアンコール王朝がいかに偉大だったかを得々と説明します。しかし、同王朝がピーク期を過ぎる15世紀以降、隣国のタイやベトナムから侵略を受け、内部分裂したり、領土を取られたりして衰退します。ラオスも14世紀後半に建国しましたが、タイやミャンマーなどに侵略され、18世紀には3つの国に分裂しました。一方、ベトナムは10世紀に中国から独立後フランスの植民地になるまで800年間、中国文化から圧倒的な影響を受けながら、国としては比較的安定していました。その間、ハノイを中心に各地に学校を作り、一生懸命勉強すれば、官吏になる道が開かれていました。

カンボジアの識字率が低いもう1つの理由は、ポルポト政権による教育の破壊があります。「字を読める者は革命の敵」とされ、少なくとも学校の教師の80%が殺されたといわれています。カンボジア事務局長のチャンディが4ページに書いている通り、1979年に同政権が崩壊して新政権が教育を復活させたとき、小学校と中学校の教師はほんのわずかしかなかった。そのため、小学校卒業者がわずか数ヶ月の講習を受けただけで教師になりました。めがねをかけていれば、それだけで先生になったとも言われています。

ラオスでは、前号でも書きましたが、共通語=国語が発達しませんでした。少数民族も多く、話し言葉が違い、文字を読める層が極めて少なかったため、中央政府と地方、さらに地方の政府と民衆の間で意思疎通が困難でした（日本の場合、中央と地方の言葉、また例えば津軽弁と薩摩弁のように地方同士の話し言葉はまったくといってよいほど違いますが、漢字、カタカナ、ひらがなの文字は共通です。文字が共通で、かつ識字率が高かったため、中央から地方の命令伝達はスムーズでした。それが明治以後の急激な近代国家作りに成功した1つの理由でしょう）。

現在、ラオスもカンボジアもこれまでの負の歴史を取り戻そうと躍起になっているかのように経済発展を進めています。都市部だけをみれば近代産業国家の観を呈してきましたが、地方を訪れると、貧富の格差が激しく、発展は都市部だけに過ぎないことがわかります。発展が装いではなく実質を伴うためには教育の普及が欠かせず、学校に通うことが貧困から抜け出す第1歩になるはずです。



## 庶民が初等教育を受けられたのは20世紀半ばから



植民地時代以前、ラオスの教育はお寺が中心でした。お寺に通ってくる子ども達に僧侶が知識を与えました。といっても、それは王族とか富裕な家族の子どもたちだけで、それ以外の子どもや女の子は教育を受けられず、家事労働をしていました。

お寺で教えられたのは仏教関係のバーリ語とサンスクリット語で、その文字は今日では「バイラン」として知られています。内容は宗教と文学に関係する知識で、当時、文字は椰子の葉に書かれました。それ以外の知識はお寺ではなく、家の中で代々伝えられてきました。しかし、隣国との戦争もあり、ラオスの教育の発展・拡充はあまり進みませんでした。また、戦争のため、当時使われた教育に関する資料はほとんど残っていません。

1893年にフランスの植民地になると、フランスからまったく新しい教育システムが導入されました。それは、今日のラオスにおける教育の基礎となっています。まずフランス語、それから数学、さらに他の科目も学校で教えられるようになりましたが、教育はラオスに滞在するフランス人およびフランス植民地政府で働くラオス人、王様一族、少数の富裕層の子どもだけでした。フランスが築いたのは初等教育のみで、それ以上に進む場合は、やはりフランスの植民地国であった隣国のベトナムやカンボジアに行かざるを得ませんでした。そしてごく一部のエリートがフランス本国の大学に進学しました。

### ラオス事務局長 カムヒアン・インタヴァ

フランスの植民地統治は1954年に終わりましたが、今度は米国がインドシナ半島にやってきてベトナム戦争が始まりました。米軍がラオスに落とした爆弾は、第2次世界大戦でヨーロッパに落とされた爆弾に匹敵する量だったと言われています。国内は親米派と反米派が対立して内戦状態でしたが、親米派の政府はラオス語の学習を取り入れ、学齢期児童の3分の1が小学校に通うことができました（とはいえ、国内の3分の2は文盲でした）。親米派の政府とソ連・ベトナムが支援する反米派のラオス愛国戦線が支配する領土で、別々の教育が行われました。

1975年、米国がベトナムから撤退して反米派が政権を握り、現在のラオス人民民主共和国が成立。新政府は教育の平等を優先して教育システムの改革を進めようとしたのですが、人材や教材、教育施設の極端な不足で思うように実施できませんでした。1985年には識字率は92%まで上昇しましたが、初等教育のレベルから先へは進まず、小学校に入学した児童のうち40%しか5年生に達することができませんでした。中学校に就学するのは、その半分以上でした。

1986年にラオス政府は経済開放政策をスタートし、海外からの援助（ODA）も受け入れ始め、教育も小中学校レベルでの質の改善が計画されました。しかし、校舎建設や少数民族出身の先生の採用などは資金不足で計画通りには進まず、とくに農村部の小学校就学率や中退率はあまり改善されませんでした。

現在、ラオスは日本政府のODAと様々なNGOによる支援を受けています。特に人材開発を目的とする教育支援は、ラオスの将来の発展にとって欠かす事ができないものとなっています。皆様からのご支援でラオスの若者が教育を受け、多方面で人材が開発されれば、それが近い将来、日本とラオス両国のますますの友好と発展につながると期待しています。

## ポルポト後、生き残ったのは中学校教師の9%、小学校教師の12.75%

カンボジア事務局長 チェン・チャンディ

12世紀のカンボジアは当時としては文明が開いて、東南アジアで巨大なクメール王朝を築いていました。この時代、プレカーン寺院とタプラム寺院が今の大学に相当する学問所として機能していました。しかし15世紀にカンボジア王国は凋落します。隣国との戦争でこの2つの寺院も壊され、閉鎖してしまいました（カンボジアの歴史は隣国ベトナムとタイの侵略からいかに自国を守るか、ということの連続でした）。それに代わってパゴダ（仏塔）が知識人を育成する場所となりました。

フランスの植民地になる前、カンボジアの正式な教育はパゴダによって担われ、僧侶が先生の役割を果たしていました。少年が生徒として入学を許され、バーリ語で書かれた仏典を覚えることが教育でした（少女は入学が許されませんでした）。

1859年にベトナムを植民地にしたフランスは、ベトナム人をカンボジアに強制的に送り込み、その土地を併合しようとしたましたが、カンボジア人の激しい抵抗に遭って失敗しました。しかし1884年、ついにカンボジア全土がフランスの植民地にされてしまいました。そして、フランスは教育システムを本国に真似て作りましたが、教育自体にはあまり力を入れず、カンボジアの教育はパゴダでの教育とあまり変わりませんでした。1931年で見ると、フランスはカンボジアに7つの高校しか作りませんでした。しかし、1936年には5万～6万人の子どもたちが小学校に入学しています（初等教育の大衆化）。

20世紀初頭から1975年まで、どの子も教育を受けられるシステムがフランスの教育制度をモデルに進められました。小・中・高・専門教育という教育システムで、公教育は教育省の100%管轄下で行われました。しかし、1975年にポルポトのクメールルージュが政権を取ると、極端な共産主義政策がとられ、教育システムは破壊され、学校は収容所になってしまいました。教育を受けた者や先生はそれだけで疑われ、収容所に入れられ、最悪なケース



としては処刑されました。統計によれば、先生の90%が処刑されたといわれています。生き残った人の割合は、大学の先生725人中50人（約6.8%）、中学校の先生2,300人中207人（9%）、小学校の先生21,311人中2,717人（12.75%）です。

ポルポト政権が崩壊した1979年、海外からの支援で教育が再開されましたが、先生も教材も圧倒的に不足していました。統計では1979—1980年に全国で幼稚園の先生267人、小学校の先生13,619人、中学校の先生205人、高校の先生20人しかいませんでした。1991年のパリ和平会談と国連が支援した選挙後、教育システムが良い方向に動き出し、多くの国・NGOなどの支援で学校が建ち、教材が届きました。

世界中からの支援で教育が大きく改善しつつある一方で、都市部と農村部の教育に大きな格差ができました。つまり、農村部の就学率は低く、ドロップアウトの割合は高い、そして教育の質も低いといった問題が生じています。学齢期の児童の中学就学率は35%ぐらいで、ドロップアウトする割合は20%を超えています。高校の就学率となると、学齢期の生徒でわずか20%程度です。皆様からの支援がまだまだ必要なことが、こうした統計からお分かりいただけると思います。



# 支援のお志を後世につなぐ「私の特別教育基金」

支援者のお名前で作られる「私の特別教育基金」は、簡単な手続きで、手軽に、安全に、かつ確実に支援者の篤志を後世に伝えることができ、加えてそのご寄付は税金の優遇が適用されます。個人に限らず法人や団体として、また遺言によりご自身のお名前で基金を残したい場合もご利用が可能です。昨年11月に募集を開始して以来、お陰様で数々のお問い合わせやお申し込みの反響をいただきました。

「私の特別教育基金」についてのお問い合わせを簡単にまとめましたが、詳細につきましては、お気軽に事務局までお問い合わせください。

## 基金には名前が付けられますか？

個人名、会社名はもちろん基金の目的にあわせてご自分で名前が決められます。  
(匿名をご希望の場合はもちろん公開いたしません。)

## 税制上の優遇が受けられますか？

内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定(認定日：平成26年4月1日)を頂いておりますので、弊団体へのご寄付は、特定公益増進法人としての税法上の税制優遇措置が適用されます。

## どのようなタイプの基金があるのですか？

基金は、寄付者のご意向により、元本を取り崩さずに運用益のみを支援に活用する永続型と、元本と運用益の両方を一定期間で使い切る期間限定型の二つのタイプが選べます。

## 意向に沿って活用できますか？

基金の運用果実等の活用は、寄付者により民際センターの実施事業等の中からお選びいただけます。

## 運用状況の報告書が届きますか？

年1回、基金の運用や助成の支出等の報告書をお届けします。

## 自販機で 国際教育支援を しませんか



現在、自販機を設置されている設置オーナーの皆様、また、これから自販機の設置を考えている皆様、自販機の収益でラオスやカンボジアなど、メコン諸国の子どもたちの教育支援をしませんか？

設置オーナーの皆様が受け取る収益をダルニー奨学金のご支援に回していただければ、それで子どもたちが基礎教育を終了し、自分の力で人生を切り開くスタート台に立つことができます。ご了解いただければ、弊団体と協力関係にある仲介業者が飲料会社と交渉します。その際、無料でチャリティ・ステッカーを作成し、自販機正面に貼ることができ、団体名や法人名、活動内容をアピールすることができます。

また、ダルニー奨学金は1対1の支援で、年1回ご支援されている奨学生の証書と写真が現地から届くので、それを自販機正面に飾ることもできます。こうして、設置オーナーの皆様のイメージアップを図ることができます。

水やお茶、ジュースを買うだけで、場所や時間を問わずに社会貢献活動に参加でき、さらに自動販売機のステッカーなどにより社会的問題を広報・啓発するメディアとしても有効なので、学校や公共施設への設置はもちろん、CSR活動の一環として設置を行う企業様も増えてきました。社会貢献活動ができる自動販売機の設置をお考えの方は、ぜひお問い合わせ・ご相談ください。

# 奨学金をもらっているラオスの小学生・中学生の家庭事情

## 小学生

### お父さんを亡くした、8人きょうだいの長男

5年前にお父さんを亡くしたトムマニーは8人きょうだいの長男だったため、お母さんと一緒に働いて家族を支えていくのに必死でした。その後、お母さんが再婚して新しいお父さんを迎え、少し生活は楽になりましたが、それでも家族10人の生活を支えていくのは容易ではありません。

トムマニーは今年5月に小学校を卒業し、9月から始まる中学校にも続けて通いたいと思っています。将来、警察官になりたいと思っているので、中学校はどうしても卒業したいと思っていますが、果たして中学校に通い続けることができるかどうかは、今のところわかりません。



トムマニー(左端)と家族



ソーンサイ(中央)と家族

### 2倍働いて、隣家の農作業の手伝いもして

小4のソーンサイの両親は田んぼを持っていないので、隣近所から田んぼを借りてお米を育て収穫しています。しかし、4人の子どもを手伝わせて隣家の2倍働いても、収穫したお米から地代を差し引くと家族が1年間食べる分のお米は取れません。それで農繁期に隣家の田んぼの手伝いをします。2倍働いて、しかも手伝いをして、それでも生活はぎりぎりです。

ソーンサイの夢は先生になること。そのため、ぜひ中学校に行きたいと思っていますが、今の経済事情では行けるかどうかはわかりません。

## 中学生

### 家族のために働き、16歳でようやく中学校へ

ブーティンは16歳で中学1年です。両親は農家ですが、所有している田んぼはとても小さく、家族が1年間に食べるお米の半分しか収穫できません。現金収入を得るために家畜を飼い始めましたが、たいていは栄養の足りない家族が食べてしまいます。ブーティンのお姉さんと家族4人、小さな家でつましく暮らして、生活はいつも苦しく、子どもたちはいつも農作業や家事の手伝いに追われ、ブーティンも中学校への就学が遅れてしまいました。

将来、看護婦になりたりブーティンは中学校で勉強することが大好きで、中学校に通い続けられることに、そして日本の支援者に感謝の気持ちを忘れません。「支援をしてくれて心から感謝しています。支援をしてくれたことは一生忘れません」。



ブーティン(右端)と家族

**ラオス・カンボジアの小学生に対する奨学金1万円のお申し込みは  
今年度(2015年度)で最後になります。**



東京・八王寺市立鑑水(やりみず)中学校が支援する  
カンボジアの奨学生

## 自由時間に一番したいことは 「ワカメの仕分け」

カンボジアの中学校で会った6人の奨学生の中に中2のリカがいました。穏やかで誠実そうな顔。お母さんを亡くし、お父さんが再婚して叔母さんに預けられた過去を感じさせません。奨学生6人に「自由時間に一番したいことは何？」と尋ねると、リカは「取れたワカメを仕分ける仕事」と答えました。自由時間に一番したいことが、なぜワカメの仕分けの仕事なのでしょう。

中2のリカは、東京・八王子市立遺水中学校が支援している奨学生です。5人きょうだいの末っ子で、お父さんが再婚すると、子どもたちはひとりずつ親戚が引き取りました。長兄は中2で中退、長女(19歳)は小3で中退、次兄(17歳)は昨年、中学校を卒業しました。次姉(16歳)は中3でプノンペンの中学校に通っています。

ワカメの仕分けは、週末や夏休みに朝から晩まで働いて日給約180円。なぜ、ワカメの仕事が「一番したいこと」なのか？これは想像ですが、おばさん宅に居候しているため、自分も食いつ持を稼いでおばさんに恩返しをしたい、その思いをかなえることができる。だから「ワカメの仕分けが一番したいこと」なのではないでしょうか。

学校で話を聞き終えて、「これからあなたの家に行きたいので案内してくれる？」と尋ねると、ちょっとはにかんだ彼女が自転車で7キロ先の家まで先導してくれました。暑い中、彼女は必死で自転車をこぎました。その彼女の姿がいつしかワカメを仕分けする彼女と二重写しになり、いつしか心の中で「ガンバレ！」と彼女に声援を送っていました。



左から3番目がリカ。最右がおばさん。  
左右隣がいとこ

**2015年度ラオス・カンボジアの奨学金の締め切りは7月20日です。**

## カンボジアでも図書プロジェクトを開始！ ～まずは33校をターゲットに！～

2015年度から、カンボジアの中学校で図書プロジェクトを試験的に実施することになりました。

現在、民際センターのターゲットエリアは4県で、プロジェクトを実施している学校は65校。その内、図書が全くない学校は調査の結果33校に上りました。今年はこの33校を対象に図書の提供をする計画です。

寄付金額はラオスと同様1口3万5千円。但しラオスに比べ図書を入れる箱の価格が2倍以上と高額の上、学校までの輸送費も高いため、この価格では多くの本を効率的に提供することができません。そこで今年度は箱の寄付はせず、職員室で保管してもらいます。

1年間のトライアルが終了した時点で評価をし、来年の夏のダルニー通信にてご報告させていただく予定です。

カンボジアの子どもたちは皆様から送られてくる本を待っています。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



### プロジェクト概要

ターゲット校数：33校

寄付金額：1口3万5千円

本の提供数：100～150冊

寄付者へのご報告：2016年5月頃

## ベトナムと私

古河様（熊本県）

我家のおせちには、毎年ベトナム料理が並ぶ。バナナリーフに包まれたもち米の中に、豚肉と緑豆のペーストがスパイスと融和し絶妙な味わいを醸かもし出す。そんなベトナムの正月料理、ヴァンテットが我家の食卓を飾るようになって、どれくらいの歳月が流れたのだろう。

思えば、私がベトナムに思いを寄せ始めたのは、ベトナム戦争がきっかけだった。1967年当時、私はまだ小学6年生、戦争の惨禍をテレビで見るたびに幼心に胸が痛んだ。

「私にできることはないか」

逃げ惑うベトナムの子供たちへの思いは年々募っていった。

1975年、私が20(はた)歳(ち)の時、15年に及ぶベトナム戦争はようやく終結した。しかしその後、新体制に不安や不信を抱く人たちが大量に国外に流出し始めたのだ。ベトナムやカンボジアなど、インドシナ地域から海外へ亡命する難民、いわゆるボートピープルと呼ばれる人たちである。その中には、沖縄の小島に漂着した後、私の住む熊本の施設に移された人もいた。1982年、そんな彼らを案じていた私に、熊本市内の難民センターで日本語を教えるボランティア募集の話が舞い込んだ。私は早速、そのセンターを訪ねることにした。人懐っこい子らが目を輝かせながら、私の周りに集まって来る。みんな10代から20代前半の若者だ。

「こんにちは」

気軽に声をかけると、片言の日本語で出身国や自分の名前を教えてくれた。難民というイメージとは逆に、屈託のない彼らの明るさが印象的だった。あいにく時間の調整がつかず、ボランティアの仕事は実現せずに終わったものの、爾来、そこで出会った数人のベトナム人との交流が始まったのである。

数日後、彼らは市内からバスで小一時間かけて片田舎の我家を訪れた。昼食に日本の家庭料理で持て成すと、彼らはベトナムの春巻きを作って感謝の意を表してくれた。小さな台所は彼らの笑い声とベトナム料理独特の香りで一杯になった。しかし、母国に残した家族の話題になると、笑顔の裏に彼らの悲しい過去が垣間見える。私を姉のように慕う彼らに少しでも楽しい思い出を作ってほしいと、その後も親しく交流を深めていった。

しかし、翌年の春、やっと熊本での生活にも慣れてきた頃、にわかに別れの話がもち上がったのだ。それは難民の流入増加や滞留の長期化に対処するため、国際支援センターが東京の品川に開設されたからである。彼らは、まともや新しい土地への移住を強いられた。

熊本を発つ日が近づく、永遠の別離を惜しむかのように、彼らから手作りの工芸品がお礼の手紙とともに届けられた。たどたどしい日本語でも思いは十分に伝わってくる。家族と離れ、言葉も習慣も違う国で、頼る当てもなく生きていかねばならない人たち。私が彼らの立場なら、どんなにか不安だろう。

「遠く離れていても、いつも見守っているから、大丈夫よ。安心してね」

私はたえず手紙を書いて励ました。

こうして、新しいセンターで3ヶ月余り、日本語の学習に専念した彼らは、それぞれの道へ独立していった。何の音沙汰もなく数年経ったある日、心配していた私の元に突然、結婚式の招待状が届いた。彼らの一人が、同じ境遇のベトナム人女性と結婚するというのである。私も飛んでいってお祝いしたかったが、遠路ということもあって、残念ながら出席は断念せざるを得なかった。苦境の中にあって結ばれた2人の人生の門出に、私は遠くからエールを送りつづけた。

それからまもなく、子宝に恵まれたという嬉しい便りも届いた。しかし、生活は依然厳しそうだ。ご主人は職を転々とし、それを支える奥さんは幼子を抱え、テレビの部品組立の内職をしているという。そんな彼らのため、私にできることといえば衣類や地元の野菜に、心ばかりの小遣いを添えて送ることぐらいであった。

1996年、久々にフェリーで上京することになった私は、川崎港で一組のベトナム人夫婦に会う約束ができた。下船すると、二人のかわいい幼子連れ、懐かしい顔が揃って私を出迎えてくれた。私は腰をかかめ、女の子の手をとり尋ねた。



「お名前は？」

「ふるかわさくらです」

5歳になったばかり女兒は、あどけない表情で答えた。年下の男の子からも、

「ふるかわたから」

と元気な声が返って来た。

「あれ、私と同じ名前ね？」

そう言って首をかしげると、夫婦は、

「お姉さんの名字をもらいましたよ」

と恥ずかしそうに笑っている。それは子供のいない私にとって、なんとも嬉しいサプライズであった。彼らの友情に、信頼に、たちまち私の胸は熱くなっていく。と同時に、責任の重ささえ感じさせるのだった。

（この子らがすすくと成長し、どんな困難をも乗り越えて、幸せになりますように！）

そんな願いをこめて、誕生日とクリスマスには小さなプレゼントを贈ることにした。時は流れ、彼らの日本での生活も安定してきたかに見えた。中には、仕事に成功し、マイホームを建てる人もいる。子供をアメリカに留学させる人、オーストラリアに移住する家族も出てきた。

しかし、年を重ねるにつれ、ベトナムに残した高齢の両親の健康を気遣う、彼らの共通の姿がそこにはあった。電話の向こうから、病床の親へのやるせない思いを訴える人たち。私はただ彼らの心痛に、時間を忘れ耳を傾けた。とはいえ、私には彼らの悲しみ、喜びに寄り添うことしかできなかった。

そうした中、私の身边にも同様、悲しい出来事がふりかかった。父を亡くした後、重篤の母の看護に追われる身となっていたのだ。

「お姉さん、困っているんでしょう」

一人のベトナム人女性はそうつぶやくと、多額のお見舞いを送金してくれたのである。母の入院や介護に何かと出費がかさなり、やりくりしに算段していた時であった。そんな私を救ってくれたのは、かつてボートピープルとして無一物で日本にやってきた彼らの一人だったのである。私は思わず涙が溢れた。胸に熱いものが込み上げてくる。支援し、支援される関係から、私たちはいつしか一人の人間として人生の悲哀を、喜びを心から語り合える友人となっていたのだ。荒波を乗り越え、強くたくましく生き抜いた人たちの優しさが私の心に深くしみ込んでいった。

2010年春、成人式に晴れ姿でポーズをとる桜ちゃんの写真が届いた。港で出会ったあの幼子が20(はた)歳(ち)になって、私の住む九州へ遊びに来たいというのだ。久々に帰省する孫娘を迎える祖母の心境だろうか。

十数年振りの再会に興奮気味の私は、新成人として胸を張って社会に巣立った桜ちゃんを出迎えた。日本に生まれ育った彼女にとって、両親の母国ベトナムには馴染めないものがあるらしい。それでも、彼女は手際よくベトナムの生春巻きを作ってご馳走してくれた。日本の文化をしっかりと学びたいと抱負を語る彼女の瞳が頼もしい。

2年後、弟の宝くんも我家を訪れた。リュック片手に、青春十八切符で各地を回る大学生だ。世界一周を夢見る彼の弾ける若さがまぶしい。我家が彼らの第二の故郷になればと願うばかりだった。しばらくして、桜ちゃんからメールが届く。

「おばさん、大丈夫ですか」

九州に台風が上陸し、洪水の被害が報道されたからである。見守っていたはずの私が、いつのまにか見守られる存在になっていた。振り返れば、ベトナムの人たちと出会ってすでに30年余の歳月が流れていた。その間、当初芽吹いた友情は、風雨に晒さらされながらも枝を伸ばし、大地に根をはり、やがて花を咲かせ揺るぎないものになっていった。これまでの細やかな民際交流を通して思いもよらぬ恩恵に浴していたのは、ほかでもない、自分自身ではなかったか、私は改めて気づかされたのである。

「お姉さん、ベトナムに行きましょう」と毎年誘われながら、時間ばかりが過ぎていく。還暦を前にまだ訪れたことのないベトナムへの思いは増すばかりだ。そこには貧しくて学校に行けない子供たちがまだ大勢いるという。

「私にできることはないか」

今年も送られてきたベトナムの正月料理、ヴァンテットに舌鼓を打ちながら、私は現地の子供たちとの出会いを夢み、新たな民際交流に思いを馳せている。

1994年から書損じハガキで奨学金支援を続ける大阪・豊中市立豊中第十四中学校の依頼で、国際理解教育をテーマに今年1月講演しました。

途上国の子どもを取り巻く厳しい教育事情などの話を全校生徒約620人が熱心に聞いてくれました。また同校が支援したタイの元奨学生ウィサンさんの感謝のメッセージも紹介し、教育支援で子どもたちが経済的自立の道を歩む事ができると、皆さんに実感して頂くことができました。

講演から約1ヶ月後、豊中十四中学から2015年度書損じハガキ収集結果と講演アンケートを送って頂きました。目標は奨学金1人分の400枚でしたが、約3倍の1,137枚も集まったそうです。

最後にアンケートの一部を紹介します。「苦難の状況にいる人に、同情ではなく、共感できる人になれば相手のために行動できる、が心に残る」「貧困の連鎖を断ち切るのは教育だと元奨学生のエピソードを聞いて実感」。



全校生徒が講演に参加

◆募集◆ 講演依頼の学校は、民際センターまでご連絡を。

## ウィサンさん(32歳)のメッセージ

「貧しい小作農出身の私は中学就学を諦めていましたが、日本からの奨学金で中学を卒業し、その後は苦学しながら高校を卒業。現在、ミシュラン・タイで働けるようになったのは豊中第十四中学校の基礎教育支援のおかげです。私同様、経済的に恵まれない後輩たちも奨学金支援という機会に恵まれることを願いつつ、皆さんの幸福と健康を祈念しています」



元奨学生が判明！  
左が奨学生時、右が現在の写真

## ラオス料理 チャリティ・イベントが 神戸で開催！

募金箱設置店「ラオス食堂 HAKLAO」と民際センターが協働開催したラオス料理チャリティ・イベントが3月に神戸で開催され、ラオス中学生1名が奨学金を受給できることになりました。

同イベントでは、まず、HAKLAO オーナーの毛利さんがラオスの魅力を熱く語ってくださいました。ニューヨークタイムズの「2008 年行くべき国の第一位」としてラオスが選ばれたことが紹介されると参加者の歓声が聞こえました。次はラオス料理ビュッフェタイム！ひき肉料理、揚げ春巻き、川海苔、ココナツミルクデザート、ラオスコーヒーなど、ラオス料理（写真右上）が初めての方にも大好評でした！

熱心に耳を傾けてくれた参加者の皆さん



初めての方にも  
大好評だった  
ラオス料理

食後は、神戸大学ラオス人留学生協会代表で、同大学院国際協力研究科博士課程在学中の Viriyasack さんがスピーチ。彼は首都 ビエンチャン出身ですが、両親は南部サーラワン県出身。地方農村部の貧困状況を熱く訴えました。最後に民際センター職員がラオス奨学金提供地域の子どもたちを取り巻く厳しい教育事情と奨学金支援の必要性を紹介。

イベント終了後、Viriyasack さんから「母国の子どもたちの教育支援のために活動してくれてありがとう」というメッセージとご寄付を頂き感激！

**募集** 今後も関西方面で「料理チャリティイベント」を開催していきますので、イベント案内希望者は、民際センターまで。



ご寄付のお願い

## カンボジアのコンポンレーン高校の女子寮建設費

遠距離通学ゆえドロップアウトしないために

カンボジアでは、高校への距離が遠すぎて高校入学を断念したり、ドロップアウトしたりする生徒が少なくありません。2014年の統計によれば、カンボジア全体では小学校 6,993 校、中学校 1,244 校に対して、中高併設校 415 校、高校 29 校しかありません。高校の数が少ないため、そして、交通機関が整っておらず、自転車がないければ一番近い高校でさえ数十キロも歩いて通わなければならないため、高校就学をあきらめたり、ドロップアウトしたりします。

コンポンチュナン県コンポンレーン郡にあるコンポンレーン高校（男子 493 人、女子 248 人）も、同じような問題に直面しています。同郡には小学校 30、中学校 8、に対して高校は 1 校しかありません。バスや電車などの交通手段は皆無なので、遠距離に住む生徒は同高校に通うために自転車を使うか、自転車がない場合、歩かなければなりません。そこで

同校は女子生徒向けに女子寮を作りました（写真下）。しかし、強い雨風が吹くと、倒れてしまいそうな掘っ立て小屋です。

そこで、20～25 名が入寮できる女子寮を建設することにしました。一棟の建設費は177万円ですが、すでに民間団体から 80 万 8 千円の助成が決まっているので、残り 96 万 2 千円の資金で建設が可能です。遠距離通学でドロップアウトするかもしれないギリギリの高校生が寮に住んで安心して高校に通えるように、ぜひご寄付をお願いします。ご寄付の金額はいくらでも結構です。もし目標額をこえるようでしたら、寮に供える備品等に活用したいと思います。また、完成後、贈呈式にご臨席いただければ、生徒たちも喜び、勉強の励みになると思われます。詳しくは担当：志賀まで。



学校の生徒たち



シャワー室



寮内の部屋



## バレンタイン・チャリティーコンサート

MS&AD ホールディングス  
浜 一平

### 第20回を記念して元奨学生が来日！ 支援する奨学生が400名を突破！

去る2月13日、三井住友海上駿河台ビルの1F 大ホールにおいて、MS&AD 軽音楽部とMS&AD ゆにぞんスマイルクラブの共催による「第20回 バレンタイン・チャリティーコンサート」を開催いたしました。

1996年に住友海上にて始まりましたこのイベントも、今回で記念すべき第20回を迎えることができ、実績と歴史のあるイベントとして大きな飛躍を遂げることができました。会社自体も、三井海上と住友海上の合併、あいおいニッセイ同和損保との経営統合と大きく発展し、これに合わせるかのように、軽音楽部も順調に規模を拡大し、現在ではグループ各社合わせて総勢50名の部員を要する団体にまでなりました。

本イベントでは、チケットの売上金に、海外も含めたグループ各社の社員・来場者からの募金も上乘せし、その全額を寄付させていただいており、前回までに計392名の子どもたちに総額1,193万円を支援してまいりました。今回のコンサートでは、約150万円を寄付させていただくことができ、新たに44名のタイ・ラオス・カンボジアの子ども



ちに奨学金を贈呈できる運びとなりました。

さらに、20回目の節目ということで、記念イベントとして、過去に本コンサートの寄付金から奨学金を受け取り、中学校を卒業されたチャナポーン・シームードさん（21）（写真上の左側の女性）をタイからお招きし、奨学金を受け取ることになった経緯、中学校に通えたことで人生がどのように変化したか、そして本活動に対する感謝の気持ちをお話しいただきました。

今回のコンサートには、グループの社員で構成

される3組のバンド（総勢22名）が出演し、感謝の気持ちを込めて演奏をさせていただきました。おかげさまで、好評のうちに幕を閉じることができ、我々も社会貢献活動に積極的に参画することの喜び、充実感を改めて実感することができました。

これまで20年間、ご支援いただきました皆さまに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。





## [ ラオスの中学生100人の学びを応援 ]

(株)ニコンCSR推進部社会貢献室  
大村 慶子

2013 年、ニコンはラオスのサバナケット県でデジタル一眼レフカメラのユニット組立を行う Nikon Lao Co., Ltd. を設立しました。私たちは、この工場設立をきっかけに、翌年5月に「ニコン・民際センター奨学生制度」を立ち上げました。サバナケット県の中学生100人の就学を支援する制度です。私たちの新しい仲間、ラオスの人々のためにできることはないか。その思いを実現した制度です。

ニコンは、同じく工場のある隣国のタイで7年にわたり奨学生制度を運用してきました。次代を担う子どもたちの教育への支援が国や地域の発展に役立つことを、私たちはタイでの経験を通じて学んできました。そのため、ラオスでの支援を考えはじめたとき、まさきに奨学生制度が候補にあがりました。そんなとき、「ダルニー奨学金」でラオスの中等教育支援に実績のある

民際センターに出会います。お話を聞き、国の事情を考慮し運営するその仕組みに共感した私たちは、民際セン

ターに奨学生制度の協働をお願いしました。制度はダルニー奨学金を土台としたためスムーズに事が運び、数ヶ月の準備期間を経て、2014年10月、サバナケット県の25の中学校の子どもたち全100人に制服や学用品を贈ることができました。



奨学生が在籍する25校にお届けした学校支援セット(図書、スポーツ用具および教材の一式)



EDF-Laoの協力を得て Nikon Lao の向いの中高一貫学校に贈った本棚

### 学ぶ環境を訪れ、わかったこと

10月初旬、学用品などの支給が終盤を迎えるころ、私たちは民際センターとともに奨学生のいる3つの中学校を訪問しました。雨期が明けたばかりのぬかるんだデコボコ道は、時速20キロ以下で進むのが精いっぱい。1校あたり片道2時間以上かけての移動となりました。



4名の奨学生(最前列)と祝福する学友や村の人々

途中延々と続くのどかな風景、到着した学校で「屋根だけの教室」などを目の当たりにし、ラオスが開発途上の国である

ことを実感しました。ですが一方で、喜んで迎えてくれた村の長老や先生のお話を聞くと、その心の豊かさを感じずにはいられませんでした。村で集めたお金でなんとか教室の柱だけは建てた話など、



見送ってくれた奨学生と親御さんと先生

子どもたちの将来を案じて応援しようとする温かい心、コミュニティでの助け合いの精神を感じ取ることができたからです。この豊かな心に包まれながら、子どもたちが行き届いた教育環境で育まれたら…。そうした期待を抱かせてくれつつ、あらためて教育支援が望まれていること、お互いの顔が見える支援の大切さを、この訪問で強く感じました。そして、ダルニー奨学金を通じて民際センターが現地と強い信頼関係を培ってきたことを確かめることができました。

現在、Nikon Lao Co., Ltd. では約1,000人が働いています。ニコンは、私たちの仲間が暮らすラオスとともに発展していきたいと思っています。

# タイ料理サークル

第2回

ちょっとおしゃれなタイ料理を紹介！

## ヤム・カノムチン [そうめんのサラダ] (ยำขนมจีน)

### 材料

そうめん 50g (1束)  
もやし 30g  
鶏むね肉 20g  
万能ねぎ (小口切り) 1本  
パクチー (ざく切り) 適宜  
海老 3尾  
きゅうり (スライス) 飾り用 3枚  
ナムプラー 大さじ1  
レモン汁 小さじ1  
A 砂糖 小さじ1/2  
にんにく油 小さじ2  
チリパウダー (一味唐辛子) 小さじ1/2  
B ピーナッツ (つぶす) 大さじ1  
にんにく油 小さじ1



### 作り方

- 1 そうめんを茹でてザルにあげ、20分以上水を切る。
- 2 もやしをさっと茹でる。
- 3 鶏むね肉を茹でて、細かくさいておく。
- 4 海老を茹でて、半分に切る。3枚は飾り用にとって置き、残りは1cmに切って具に入れる。
- 5 ボールに調味料Aを入れて、良く混ぜておく。
- 6 5のボールに、そうめん、もやし、鶏むね肉、海老、万能ねぎを入れて混ぜ合わせる。
- 7 皿に盛り、Bを上からかけて、好みでパクチーを乗せる。
- 8 きゅうりと海老を飾る。三角に盛り付けるとお洒落な感じになります。

### ■ にんにく油の作り方 ■

- 1 にんにく1個を1片ずつにばらし、包丁の背でつぶしてから、みじん切りにする。
- 2 フライパンに入れてサラダ油をひたひたに入れる。(冷たい油ににんにくを入れます)
- 3 火にかけて、弱火でじっくり炒め揚げにする。常に混ぜて、火の通りを均等にする。
- 4 きつね色になる一歩手前で火を止めて、余熱で色付ける。(焦がさないように注意してください)
- 5 荒熱が取れたらガラス瓶に入れる。

## Point!

- カノムチンは米の粉で作られた生麺で、タイで良く食べられています。日本のそうめんに似ています。
- 辛さはお好みで調節できるので、お子様や年配の方にも喜ばれる料理です。
- そうめん、具材、調味料を分けて持って行けば、その場で合わせて持ち寄りパーティーに使えます。
- にんにく油は、冷蔵庫で保存できるので、重宝します。たとえば、インスタントラーメンに1さじ加えれば、美味しさがアップしますよ！



### 西大路有紀子

1995年よりタイ料理を学ぶ。池袋の自宅で料理教室を主催。2013年よりチェンマイでベジタリアンタイ料理を学ぶ1996年よりダルニー奨学金を支援。



## 教えて、ダルニーさん！

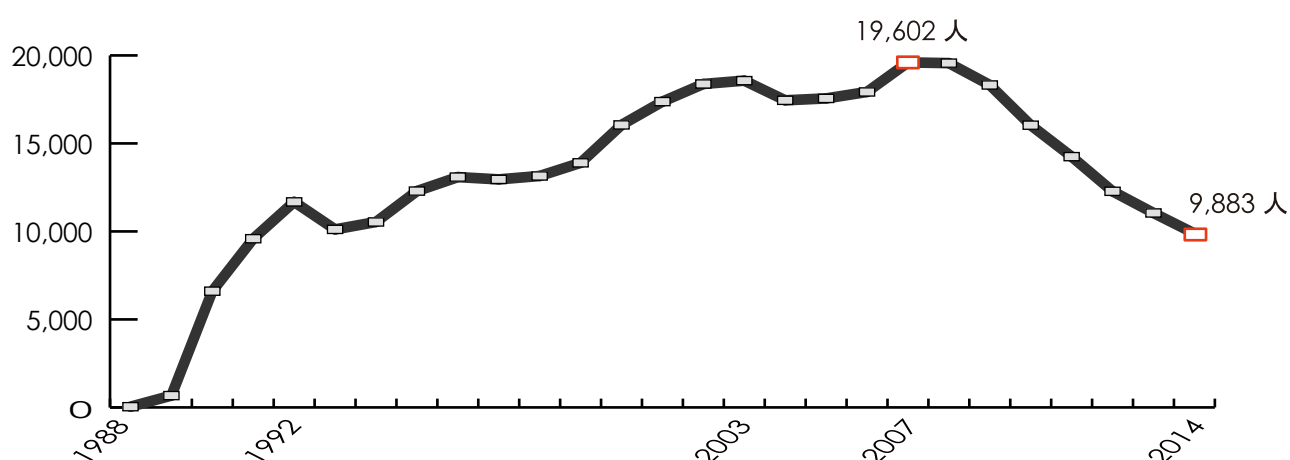
事務局によく問い合わせのあるダルニー奨学金や民際センターについて、ここで回答させていただきます。

**Q1** 民際センターが大きくなったから、公益財団法人になれたのですか？

**A1** いいえ、違います。団体の規模にかかわらず、内閣府へ申請し、実施している事業や活動が公益を目的としている団体と認可されれば公益財団法人になることができます。公益財団法人になれば、ご支援をされている皆様が税の還付を受けられること、さらに、それが社会的信用の増大にもつながることなどが公益法人の認可を取得した理由です。

**Q3** 2016年度から中学生への支援に全面的に移行するようですが、ラオスとカンボジアの小学生は100% 小学校を卒業することができるようになったのですか？

**A3** 小学校の就学率は年々上昇し、様々な統計などでは全国平均で 90% ぐらいになっていますが、中学校の就学率は全国平均でも 50% です。民際センターの限られた資金と事務能力では両方を支援することは困難なので、2016 年度から就学率がいまだ半分の中学校に支援対象を移します。



**Q2** いつも民際さんから支援のお願いが来るけれど、そんなに寄付が必要なの？

**A2** 支援対象国を 5 カ国に広げましたが、逆に民際センターへの寄付は 2007 年をピークに減少しています。上の表を見てください。奨学金の支援口数でいえば、この 8 年で 1 万口（約 5 割）減少しています。

**Q4** ダルニー通信は誰が作っているのですか？

**A4** 記事は主にスタッフが書き、編集は民際のスタッフが行い、レイアウトはプロの方々に無料でお手伝いしていただいています。印刷はタイで行っています。

## 平成 27 年度事業計画及び予算等が承認されました

本年 3 月 9 日、平成 26 年度第 2 回通常理事会が開催され、平成 27 年度の事業計画案及び予算案等が承認されました。続いて 3 月 25 日に開催された平成 26 年度第 2 回定時評議員会においてその旨報告された後、それらは公益財団法人民際センターを管轄する内閣府に提出されました。平成 27 年度の事業計画の概要は以下の通りで、予算の概要は右表にまとめました。

### 平成 27 年度事業計画

**基本方針：**公益財団法人の認定を受けてから 2 年目となる平成 27 年度も弊団体はこれまで同様、教育支援活動を通じて世界の平和構築と貧困削減に寄与することを目指し、奨学金支援事業を中心とした様々な活動を効果的・効率的に行っていく。

**主な事業計画のポイント：**募金活動や広報に注力し、寄付金収入の全体的な減少傾向に歯止めをかけ、併せて新たな助成金・補助金を獲得することにより経常収益合計で 1 億 8,500 万円の達成を目指す。奨学金事業では支援対象国 5 ケ国の小・中・高合計で 9,400 人の生徒の支援の実現を目指す。学校施設整備事業（校舎建設）では中学校 2 校が完成予定で予算は 2,400 万円とする。ラオスの教師修士留学事業では新入生 2 名を含む 6 名の留学生のための予算、720 万円を計上する。新規事業としての実施可能性を探るパイロット事業として、インターネット・フレンドシップ校プログラムやラオスのコンピュータ教室プログラム等を実施する。また他のご寄付同様に寄付金控除適用の対象となる「私の特別教育基金」も積極的に募集する。

科目	予算
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
1. 経常増減の部	
(1)経常収益	
基本財産運用益	10,000
特定資産運用益	10,000
事業収益	13,100,000
受取補助金等	4,000,000
受取寄付金	167,860,000
教育普及事業	107,000,000
教育環境事業	40,500,000
教育内容拡充事業	9,950,000
その他	10,410,000
雑収益	20,000
経常収益計	185,000,000
(2)経常費用	
事業費	173,874,000
管理費	11,126,000
経常費用計	185,000,000
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1)経常外収益	0
(2)経常外費用	
一般正味財産期首残高	-10,546,482
一般正味財産期末残高	-10,546,482
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
受取補助金等	8,000,000
受取寄付金	180,000,000
一般正味財産への振替額	-166,560,000
当期指定正味財産増減額	21,440,000
指定正味財産期首残高	83,387,609
指定正味財産期末残高	104,827,609
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>94,281,127</b>

平成 27 年度収支予算書から抜粋

### 平成 27 年度もゆうちょ銀行の振込み手数料が免除されます

2015 年 4 月から 1 年間、公益財団法人民際センターへの寄付金等振込時の手数料が、2014 年度に引き続き免除扱い（無料）となる承認をゆうちょ銀行からいただきました。

振込先銀行： ゆうちょ銀行（郵便振替口座）

口座番号： 00160-7-664928

口座名義： 公益財団法人 民際センター

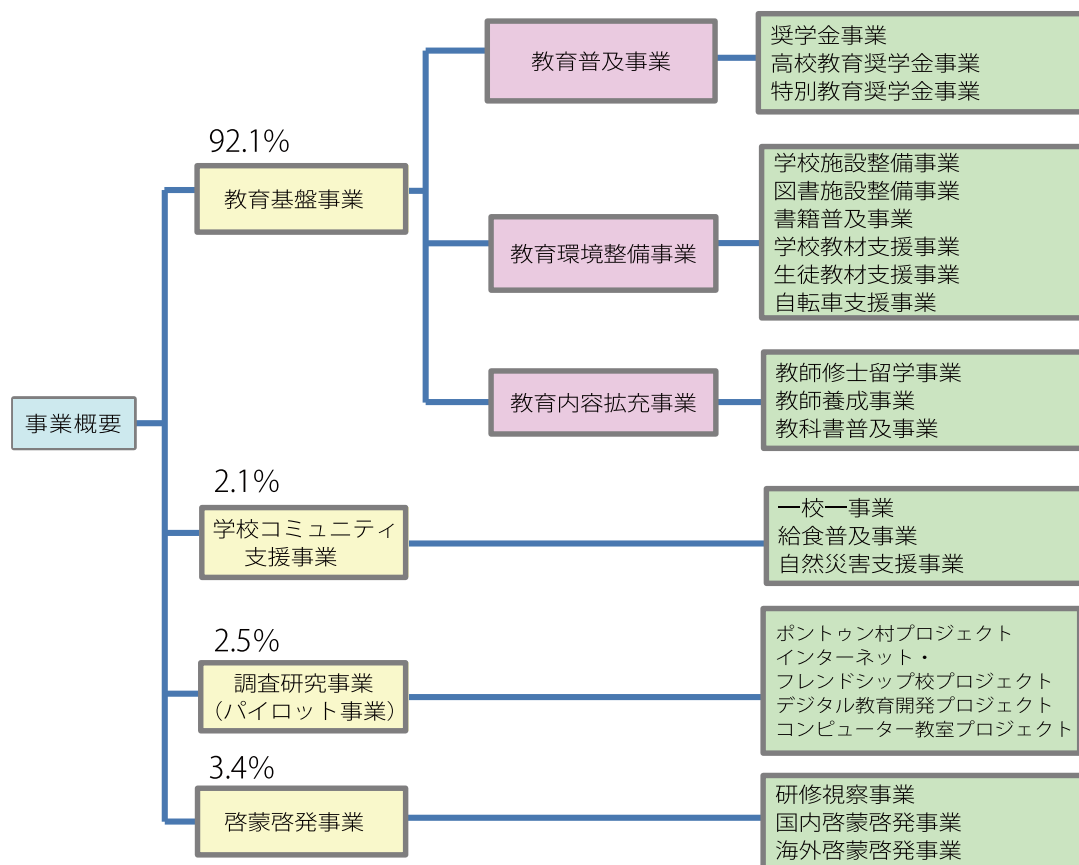
免除対象のお振込み： 公益財団法人民際センターへの寄付金のお払込み

弊センターからお送りした郵便振替用紙を郵便局にお持ちください。窓口でお振込みいただく場合に限り、手数料が免除されます。郵便局備え付けの用紙をご利用の場合も、上記口座番号・口座名義をご記入いただければ、同様に免除されます。いずれの場合も窓口にて「手数料免除の振込みです」とお伝えください。

引き続き、皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

※ATM 及びゆうちょダイレクト（パソコン、携帯、電話、FAX）からのお振込みは手数料が免除されず、手数料が発生します。ご注意ください。





民際センターが実施する事業の構成



昨年、理事に就任

## 小島明氏

元日本経済新聞論説主幹・専務取締役、日本経済研究センター会長、慶応大学大学院商学研究科教授。現在、政策研究大学院大学（GRIPS）理事・客員教授、世界貿易センター東京会長、日本生産性本部理事、ベルリン日独センター評議会副議長。平成26年4月1日に公益財団法人民際センターの理事に就任。

「『民際』という財団の命名には時代を読む先見性があります。グローバル化時代の今日、民間レベル、個人レベルでの交流の役割が一段と重要です。発展と平和のために欠かせない基礎的なインフラになっているからです」

評議員に就任

## 江藤真規氏

教育コーチングオフィス サイトコーディネーション代表。マザーカレッジ主宰。二児の母。思春期の子育てを経験したことを機にコミュニケーションの大切さを実感し、2010年、お母さんのための学びの場「マザーカレッジ」を設立。平成26年9月26日に公益財団法人民際センターの評議員に就任。



「グローバル社会を迎えて、親も意識を変えていく必要があります。子育て中のお母様方を対象にコーチングコミュニケーションの指導、そして、学びを通してお母様方の社会進出の支援にも取り組んでいます」

## 〔 支援国での奨学金授与式に参加してみませんか？ 〕

支援者の皆様が現地で奨学生に奨学金を授与する授与式参加旅行を計画中です。授与式の他にも、奨学生の学校や家庭への訪問、村での宿泊を検討しております。予定は以下の通りです。



奨学金の貯金通帳を奨学生に渡す支援者（タイで）

支援国	スケジュール（仮）
タイ	6月22日～27日
ミャンマー	8月下旬
ベトナム	9月または2月下旬
カンボジア	10月

※ 6名のお申し込みが無い場合は、ツアーをキャンセル致します。

※ 詳細は担当：関口まで、またはEメール（[tabi@minsai.org](mailto:tabi@minsai.org)）にて事務局までお問い合わせください。

※ ご参加は、弊団体のご支援者様に限らせていただきます。

**H.I.S. × 民際センター**

## 〔 ラオス小学校支援と交流7日間の旅 〕

教育の行き届かない農村で手洗いや歯磨きを教え、給食を届けよう！！

ツアー出発日：2015年9月6日（日）

旅行代金：169,000円（60日前までの申込で1万円引  
30日前までの申込で5千円引）

※ 大人お1人様/2・3名様1室利用時/燃油サーチャージ含む。

※ 各発着空港施設使用料、旅客保安サービス料、現地出入国税が別途必要となります。

### ◆◆ このツアーのポイント ◆◆

- 4名様のご参加で1人の子どもが1年間学校に通える。
- 衛生教育の行き届かない村の子どもたちに手洗いや歯磨きを教えよう。
- 「学校給食普及プロジェクト」に参加して子どもたちと日本の給食を一緒に作ろう！
- 成田空港より添乗員同行！現地では更に日本語ガイドも同行



教室内で生徒と交流

日付	スケジュール
9/6	成田・関空(10:00～10:30)発 → 乗継(ホーチミンまたはハノイ) → ビエンチャン(18:35～19:20)着
9/7	ビエンチャンからカムアン県へ
9/8	村の小学校を訪問し、歓迎式・ランチプロジェクトに参加
9/9	村の小学校を訪問し、手洗い・歯磨きを教える活動
9/10	奨学生のお宅に訪問・お別れ会、ビエンチャンへ
9/11	自由行動、ビエンチャン(19:35)発 → ハノイ(20:35)着
9/12	ハノイ(00:20)発 → 成田・関空(6:40～7:00)着、解散

※詳細は担当：志賀（[shiga.daul@minsai.org](mailto:shiga.daul@minsai.org)）まで。



# 事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の  
お問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

## 地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

- ① 書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

## 奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すことができます。送料は負担願います。

## 個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

82円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

## タイの奨学生と文通したい

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

- ① : タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と82円切手4枚を同封して送ってください。
- ② : タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。  
82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。  
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

## 国際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、関口までお問い合わせください。

## 奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

## 毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、銀行自動引落申込書をご送付いたします。

### 編集 後記

今年2月、久しぶりに1週間タイに滞在し、タイ事務所のスタッフと話したり食べたりしました。タイではセレモニーなどで大勢が食べるとき、日本人のように全員席についてから「いただきます」と言って食べることはせず、多くの場合、着席した人から食べ始めます。また、朝の出勤時に「おはようございます」、退社時に「お疲れ様」などとあいさつはしません。タイ人同士で「サワディー」とあいさつしているのも聞いたことがありません。「サワディー」はそれほど古い言葉ではなく、第2次世界大戦後、これから国が大きくなり世界に出て行くに際し、英語のようにあいさつする言葉が必要だからと当時の内閣が作ったそうです。タイ人同士は日常的には「どこ行くの?」「もうご飯食べた?」などとあいさつし、「How are you?」とか「Good morning」などと言うと、かえって水臭い・他人行儀と取られてしまうようです。所違い文化・習慣が違います。弊センターは今年から中高生を対象にインターネットによる交流事業を始めますが、生徒たちがそうした文化・習慣の違いを学ぶ良い機会になってほしいものです。(富)



公益財団法人  
国際センター

ダルニー通信 第76号 2015年8月1日発行 発行人:秋尾晃正  
公益財団法人国際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F  
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783  
Eメール: info@minsai.org ホームページ: http://www.minsai.org/  
振替口座: 00160-7-664928  
(この口座は振込手数料免除口座です。必ず郵便窓口にてその旨お伝えください。)

# ラオス少数民族教師養成

「小学校で先生の言うことが全く理解できませんでした」

—ある少数民族の少女—

ラオスには49民族があり、約80の言語が使われています。しかし、すべての学校の授業はラオ語で行われているため、少数民族の子どもたちは授業が理解できず、勉強に興味を失い、ドロップアウトするか、中学校への就学を諦める場合が少なくありません。



ラオス語はまだわからないけれど、勉強は負けませんよ！

## ラオス農村部の中学校への就学率

非貧困層＝経済状況が比較的の良い少数民族でも、貧しいラオ族より就学率が低い！貧しい少数民族の場合はもっと低い！特に女子は3%です！

	ラオ族		少数民族	
	男	女	男	女
全体	35%	32%	12%	7%
非貧困層	40%	37%	16%	10%
貧困層	21%	17%	9%	3%

(世界銀行, 2007)

っていました。授業の内容が分からないはずなのに、どうしてでしょうか？

それはニョン君の先生、アパンさん（写真右）が少数民族出身でトリー族の言葉を話せるからです。アパンさんは民際センターの少数民族教師養成奨学金を受け、2009年に教師養成短大を卒業しました。教師免許を取っ

幸い、ラオ語が分からない少数民族の子どもでも授業に問題なくついていけるケースもあります。上の写真の少年はサワンナケート県バンドン小校1年のニョン君で、トリー族という少数民族。取材当時はラオ語がまだ分かりませんでしたが、ニョン君は学校に来るのが大好き！しかも成績もクラスの上位に入



母校で働くことができとても嬉しいです。

学生1人が教員になるためには2年間、各年12万円程度が必要になります。今年度の寄付の締め切りは7月20日頃で、1000円から寄付ができます。年間12万円です2年間のご支援をされる場合には1対1の支援になり2年間で3回、奨学生の情報が届きます。詳細やお申し込みは[info@minsai.org](mailto:info@minsai.org)または03-6457-5782（担当：志賀）にご連絡ください。

たアパンさんはそれ以降、母校のバンドン小学校に勤めています。彼女のクラスには14人のトリー族と20人のラオ族の子どもたちが勉強しています。授業は基本的にはラオ語ですが、同じ内容をトリー族の言葉でも説明しているので、すべての子どもたちが授業を理解することができるのです。

残念ながら、アパン先生のように少数民族言葉が分かる先生の数には十分ではありません。